

## 昭和の南海地震体験談

氏名:谷口 猛(たにくち たけし)  
生年月日:大正 12 年 9 月 2 日  
地震を体験した場所:田辺市  
当時の家族状況:祖母、母



### 1) 地震発生時の状況

当時 23 歳、駅前の湾のそばにあった家で寝ていて、地震ですぐに起きて、近所の人と川を見に行く。

### 2) 津波襲来時の状況

湾の水が引いたら津波が来るという事は、祖母など年寄りから聞いていたので知っていた。

一度見に行った時波は静かで引いていないから、一度家に戻って、二度目見に行くと潮が引き始めていたので、「津波来るぞー！早う(く)逃げろ！皆連れて逃げろ！」と大慌てで戻る。

母に位牌を渡し、米も渡そうと、袋に詰めて、表を見たら、母は逃げていて、すでにいなかったのので、米袋を布団に放って、自分は足の不自由な祖母を背負い、駅に向かって逃げた。その時、潮が静かに、脛辺りまで来ていた。



### 3) 家族の行動・被害

離れた母が駅前で、他所の人たちとウロウロしていたので、「(ここは津波来る)あかんで」と三人で[呼び上げ地蔵]まで逃げた。家族 3 人は全員無事だった。



当時の自宅周辺  
(提供:新庄公民館)

### 4) 集落・周囲の被害

山から戻ってみると、床上浸水で、古い家は全壊、住んでいた家も全壊。家の周りで 6 人死亡、市全体では 69 人死亡。

### 5) 地震・津波後の生活

家が全壊した人は、引き揚げ援護局が使っていた、海兵団の兵舎に「新浜寮」と名付けて住

んだ。寮長として、最初から最後まで住んだ。

S22, 6, 8に天皇さんが来た時に、部屋を見せて説明をしたこともある。支援物資で食べ物はおにぎりなどを貰った。

職場は製材所が全壊で、再建してから定年まで、勤務した。

海兵団の兵舎を出ることになり、結婚して妻の実家に間借りして、後に家を借りて住んで、S49に今の高台に家を建てて住んだ。



呼び上げ地蔵

#### 6) 次の災害への備え

当時、逃げた「呼び上げ地蔵」より上に、家は建てたが、南海道地震の時、船が、呼び上げ地蔵に迫ってあるので不安だ。保険等が入っていない。

#### 7) その他

東光寺の慰霊碑は、寄付を集めて、四国まで石選びに行き、石材店とも相談しながら作った。「南海道大地震津波・三〇周忌を迎えて」という冊子も作った。

<北長潮位標>



<駅前潮位標>



<東光寺慰霊碑>

